

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4270135116		
法人名	社会福祉法人 鳳彰會		
事業所名	グループホーム ひこばえ		
所在地	〒851-0253 長崎県長崎市早坂町1180番地7 (電話) 095 - 821 - 7165		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年1月15日

【情報提供票より】(平成19年11月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
		または1日あたり	1,500 円

(4) 利用者の概要(11月22日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	3名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.7歳	最低 70歳	最高 90歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	長崎病院・田上病院・十善会病院・弥生ヶ丘中口内科医院・わたなべTOMO歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同法人の併設・隣接施設として特養・デイサービス(ショートステイ事業実施)・ケアハウスの他に、今年4月よりグループホーム共用の通所を開設された。ホームの理念である「軽度の認知症老人に対し安定した家庭的雰囲気の中で認知症状の進行を緩和させ、可能な限り自立志向に向けた介護を目指す」を掲げ、「人に思いやりを持ちましよう・みんなと仲良くましよう・よくかんで食べましよう・楽しく生活ましよう」を、日々の介護に向けての職員の意識付けの為の合言葉として、リビングに掲示されている。家庭的な雰囲気の中で、入居者と心の通い合う温かい介護と接し方に努め支援されている。又、広い駐車場を有し、ホームからの眺めもよく広々とした共用空間で、入居者と職員が語り合い楽しく過ごされており、今後は、通所との共用により地域との関係性の更なる構築が期待される。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を真摯に受けとめ評価後は、改善計画シートを作成し、改善目標に沿って(感染症ファイルの作成・年4回のお便り発行・ヒヤリハットの詳細な報告書等)、可能な事から改善に向けて取り組まれている。まだ取り組まれていない改善項目については、把握されているが長期的継続の取り組みとして努力の姿勢が窺える。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>日々の取り組みを分析する事で、質の向上に向けて、今後どのように支援していくか評価の意義を理解し、職員の確認を得ている。今後、分担を決めて、全職員で共有して自己評価に取り組むよう、結果より過程を大切に実践されると更に良いのではないかと。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は、2ヶ月に1回を目途に開催され、地域包括支援センター職員・民生委員・町内会長・入居者・家族の代表・管理者・職員で構成されている。会議の内容は、グループホームを理解して頂くことにより、活動内容・行事報告・入居者の状態・自己評価及び外部評価を報告し、参加者より要望・助言等を出してもらうなど双方向的な内容の充実した会議が開催されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>前回の外部評価後、充実した内容の「お便り」を年4回の予定で発行されるようになり、家族が楽しんで見られている。家族の実情に応じ、随時、電話連絡をしたり金銭管理は預り証を発行し、出納帳を記入して家族に確認を得られている。重要事項説明書に苦情処理担当者を明記し対応に努められているが、家族の心情を考慮し、些細な事も引き出せるよう更なる取り組みが望まれる。又、家族会の発足により意見・要望・苦情等を気軽に話し合える機会を設け、家族の安心に繋がる相互関係の構築を期待する。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人全体での交流を考慮されているが、現状ではまだ具体的な取り組みが成されていない。運営推進会議の参加者に意見を頂き、地域との交流を積極的に行い、ボランティアや中学校の体験学習の受け入れや地域の方が気軽に訪問できる様、玄関に案内看板を設置する等、管理者及び職員がパイプ役となって地域性を取り入れ、サービスの向上に向けた交流を図られることを期待する。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が、住み慣れた地域の中で継続して生活出来る様に、職員は、日々の介護の意識付けとなる合言葉を掲げ、共に明るく楽しい生活をされている。		地域密着型サービスの意義を確認して、地域住民との交流のもと、関係性の継続をどう形作られるか、今後の取り組みの中で職員が話し合い、理念の見直しに繋がる事が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設時の理念を、事務所の訪問者名簿の上の目につく場所に掲示し、日々の介護に向けた職員の意識付けとなる合言葉も食堂に掲示している。入居者と心の通い合う温かい介護を常に、心掛けて支援されている。今後は、理念やその他の掲示物の掲示方法を工夫されると更に良いのではないか。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内で活動する会は子供会だけで、今後法人全体での交流を考えられているが、現状ではまだ具体的な取り組みがなされていない。		運営推進会議の参加者に意見を頂き、地域との交流を積極的に行い、ボランティアや中学校の体験学習の受け入れや地域の方が気軽に訪問できる様、玄関に案内看板を設置する等、管理者及び職員がパイプ役となって地域性を取り入れ、サービスの向上に向けた交流を図られることに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を真摯に受け止め、評価後は改善計画シートを作成して可能な事から改善されている。自己評価は、評価を質の向上に向けての取り組みとして活用され、職員の確認を得ている。今後は、評価の意義を職員と共に共有して、取り組みの工夫を考慮の上、全職員で結果より過程を大事に実践されると更に良いのではないか。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、2ヶ月に1回を目途に開催され、地域包括支援センター職員・民生委員・町内会長・入居者・家族の代表・管理者・職員で構成されている。会議の内容は、グループホームを理解して頂くことにより、活動内容・行事報告・入居者の状態・自己評価及び外部評価を報告し、参加者より要望・助言等を出してもらうなど双方向的な内容の充実した会議が開催されている。		

グループホーム ひこばえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	デイサービス事業所を通じて、町内の行事・集会及び、町内清掃にも参加されている。又、法人全体での地域との交流を考慮されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	前回の外部評価後の取り組みとして「お便り」を年4回の予定で発行し、充実した内容で、家族が楽しんで見れるお便りである。又、家族の実情を把握し、必要に応じ電話連絡をされている。金銭管理は預り証を発行し、出納帳を記入して家族に確認を得られている。今後は、訪問の少ない家族に入居者の様子を連絡する工夫をされると更に良いのではないかと。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所に面会者名簿を設けてあり、重要事項説明書に苦情処理担当者を明記して、対応に努められている。		家族の心情を考慮して、些細な事も気軽に語り合える場となりうる家族会の発足(家族アンケート等で要望を伺う取り組み)を検討していただき、家族の安心に繋がるよう、より良い相互関係の構築を期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者が、仲良く馴染みの関係が保てるようにとの思いがあり、離職は少なく、異動した職員はグループホームを時折訪問して、馴染みの関係が継続出来るよう努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受講可能な研修を受講している。毎月、処遇会議や法人内部研修(緊急時対応の研修・身体拘束シンポジウム等)を実施されている。今後は、研修報告書を活用し、資料や報告書を職員間で閲覧して共有し、段階的な研修の研鑽となると更に良いのではないかと。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流のあるグループホームの管理者に分からない点を聞いて解決に結び付けているが、連絡協議会には加入されておらず、又、他のグループホームとの交流及び職員同士の交流の機会が少なく、サービスの質の向上に向けた取り組みが不足している。		運営推進会議をさきがけとして、法人内に留まる事無く、地域の連絡協議会への加盟や近隣のグループホームとの交流を積極的に行う事で、地域との情報交換の吸い上げともなる。管理者及び職員がパイプ役となって地域性を高め、自らもサービスの向上に向けて、段階的研鑽を重ねられる事を期待する。

グループホーム ひこばえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	退院後やケアマネジャーの紹介の利用者を受け入れ、一人暮らしの不安を取り除き、安心して生活して頂けるよう、今までの生活習慣を大切に、本人と家族との話し合いを十分に重ねている。又、ホーム見学や職員との面談を実施して、納得されてから徐々に馴染んで頂く様に努められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々な経験を経てこられた入居者は、使い慣れた机や書棚のある居室で、歴史読本の雑誌を読んで過ごせる様配慮され、職員と共に、喜怒哀楽を共にして支え合いながらの関係構築に努められている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握する事でこれまでの暮らし方を尊重して、入居者の意向や希望を聞き、近隣へ車で買い物に出かける等の支援をされている。今後も、入居者の日常生活に於ける意向の把握と入居者本位の心のケアに努めて頂きたい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者と家族の意向や要望を取り入れながら、入居者本位の暮らしに反映したサービス内容となる介護計画を作成されている。毎月の処遇会議で管理者による指導と報告を交え、又、申し送りノートの活用と職員間の話し合いで共有を図られており、介護計画の説明後には、家族からの同意と署名・捺印が得られている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の処遇会議で、入居者一人ひとりの介護計画の実施状況と状態の変化に応じ、6ヶ月及び随時、計画の見直しをして次の計画へ取り入れられている。今後は、モニタリングの時に家族も参加して頂き、安心して有意義な支援に繋がるよう、3ヶ月を目途に見直しをして、症状の緩和ケアの継続をされると更に良いのではないかと。		

グループホーム ひこばえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム共用の通所を4月に開設され、地域との足がかりともなり今後の多機能性が期待される。又、入居者や家族の要望に応じ、柔軟な対応をされ、家族の相談相手となり安心して頂ける継続的な支援をされると更に良いのではないかと。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医や協力医療機関の確保があり、入居者が転倒して骨折入院の折、内科医への報告を行い、必要時は往診を依頼されている。気軽に相談や指示が仰げる関係作りが出来ており、適切な医療支援がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う指針を作成され、入所時十分に家族に説明をして同意書に署名・捺印を得られている。又、訪問看護との契約にて医療連携体制を確保されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者一人ひとりに配慮し言葉掛けに留意され明るく笑顔で接しておられる。リビングを中心に居室があり、食後に和室で寛いで、ゆったりとテレビを見たり会話をし楽しそうに過ごされている。お便り等の個人情報への配慮も望まれる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に食後の行動を把握して、居室で過ごす方や歯磨きをする方等、入居者の思いを気掛けそっと寄り添って介助をされている。		

グループホーム ひこばえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事をされており、介助の必要な入居者にはペースを大切に食卓を囲み、楽しく食事が出来るように配慮されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前には、バイタルチェックを行い、入居者の容態を把握されている。午前又は午後拒否される方は時間的な工夫を考慮しながら週3回を目途に、身体の清潔を保ち、入浴の支援をされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が食事の後片付けや食器拭きをされるなど、張り合いが持てるように出来る事の支援をされている。又、花壇を利用して花を育てたり、入居者一人ひとりの意向や力量に応じ喜びのある生活への取り組みを考慮されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じた行事等で外出の機会を設けて支援されている。今後は、日光浴の大切さを理解され、一人ひとりの体調を考慮し、希望に沿って可能な限りの外出の機会を設け、支援されると更に良いのではないかと。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中施錠される事なく、家族が気軽に訪問されている。夕方になると、入居者の帰宅願望に対し職員がコミュニケーションを取りゆったりと対応するように心掛けられている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防組織編成表を作成し、年2回(その内1回は消防署立会い)特養と合同の避難訓練を実施され、消火用散水栓・消火器・懐中電灯・自動通報装置を設置されている。今後は、ホーム独自の避難訓練(消防署立会い)を考慮し、あらゆる災害に備えて備蓄品(飲料水・最低3日分余りの食料等)の確保が望まれる。		

グループホーム ひこばえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居時、一人ひとりの好みや食事量及び治療上水分摂取制限が必要かどうかの把握に努め、食事量(残食調査)は記録をとり、食事・おやつの際に水分摂取の促しをされている。入居者の嚥下・咀嚼にも配慮され、栄養バランスについては、特養の管理栄養士の指導を受けられている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広々とした共用空間で、バリアフリーで車椅子でも十分に移動可能なゆとりあるホールを有し、使い勝手の良いキッチンと食卓テーブルがあり、又、和室にはテレビや回転椅子・ソファー等を設け、入居者と職員が共に語り合い、寛いでおられる。陽射しは、カーテンで和らげ、入居者の好む光彩に心掛けられている。又、手作りのカレンダーがあり、家庭的な雰囲気作りに配慮されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、広くてゆとりがあり、タンス・書棚・机・ベッド・カーテン・寝具・衣類掛け・ソファー・日用品・写真等使い慣れた品を持ち込まれており、入居者の生活歴を把握され生活の継続的支援に努め、安心して過ごせる様に、家族との関わりが持てる居室への配慮をされている。</p>		